

蕨市導入促進基本計画

1 先端設備等の導入の促進の目標

(1) 地域の人口構造、産業構造及び中小企業者の実態等

当市は埼玉県南部に位置し、市域面積が5,11k㎡と日本一小さく、人口密度は全国の市町村の中で最も高いまちである。古くは中山道の宿場町として、また、機織物のまちとして栄えた歴史があり、その後、交通の利便性、生活の利便性が高い住宅都市として発展し、現在に至っている。

総人口は昭和55(1980)年代から7万人前後を維持しており、近年は微増傾向にあるが、自然動態(出生-死亡)と社会動態(転入-転出)は「自然増・社会減」の状態であったものが、平成18(2006)年度頃から「自然減・社会増」に転じている。

住宅都市として発展した当市では製造業等の立地は難しい状況にあることから、当市の産業構成は商業・サービス業が7割超を占めているが、平成28年の経済センサスによる当市の事業所数は、2,771社であり、平成24年と比較すると143件減少している。これは、近年、近郊への大型ショッピングセンターの相次ぐ出店などの影響や経営者の高齢化、世代交代が進まないことなどによる、小規模商店の減少によるところが大きく、市内商業機能の低下が課題となっている。

工業環境においては、住宅地として発展してきた街であることから、下請的な性格が強い小規模の工場が多く、数も年々減少しており後継者不足も深刻化している。

このような中、市内中小企業の生産性の抜本的な向上により、人手不足等に対応した事業基盤を構築するとともに、後継者が引き継ぎたいと思えるような企業にしていこうとする取り組みを支援していくことは、喫緊の課題である。

(2) 目標

当市は、生産性向上特別措置法第37条第1項の規定に基づく導入促進基本計画を策定し、中小企業者へ計画内容等の周知を十分行い、老朽化が進む設備を生産性の高い設備へと一新させ、労働生産性の向上を促進する。

これを実現するための目標として、計画期間中に年10件、計画期間3年間で30件の先端設備等導入計画の認定を目標とする。

(3) 労働生産性に関する目標

先端設備等導入計画を認定した事業者の労働生産性(導入促進指針に定めるものをいう。)が年平均3%以上向上することを目標とする。

2 先端設備等の種類

当市の産業は、商業・サービス業が7割超を占めているが、多様な業種が当市の経済、雇用を支えているため、これらの産業で広く事業者の生産性向上を実現する必要がある。したがって、多様な産業の多様な設備投資を支援する観点から、本計画において対象とする設備は、経済産業省関係生産性向上特別措置法施行規則第1条第1項に定める先端設備等全てとする。

3 先端設備等の導入の促進の内容に関する事項

(1) 対象地域

当市は、広く事業者の生産性向上を実現する観点から、本計画の対象区域は、市内全域とする。

(2) 対象業種・事業

当市の産業は、商業・サービス業が7割超を占めているが、多様な業種が当市の経済、雇用を支えているため、これらの産業で広く事業者の生産性向上を実現する必要がある。したがって、本計画において対象とする業種は、全業種とする。

また、労働生産性が年平均3%以上に資すると見込まれる事業であれば、幅広い事業を対象とする。

4 計画期間

(1) 導入促進基本計画の計画期間

導入促進基本計画の計画期間は、国が同意した日から3年間とする。

(2) 先端設備等導入計画の計画期間

先端設備等導入計画の計画期間は、3年間、4年間または5年間とする。

5 先端設備等の導入の促進に際し配慮すべき事項

- ・人員削減を目的とした取組を先端設備等導入計画の認定の対象としない等、雇用の安定に配慮する。
- ・公序良俗に反する取組や、反社会的勢力との関係が認められるものについては先端設備等導入計画の認定の対象としない等、健全な地域経済の発展に配慮する。
- ・市税を滞納している者は先端設備等導入計画の認定の対象とはしない。